

## 川西市立中央図書館の開館20周年に思う

川西市立中央図書館 館長 古川 秀明

川西市立中央図書館は、平成23(2011)年4月に開館20周年を迎えました。平成3(1991)年にオープンした当時、駅前の商業ビル内に図書館本館を置く自治体は少なく、全国でも珍しいケースであったようです。立地の良さが幸いして、開館当初より市民をはじめ、たくさんの方々にご利用いただき、1日の入館者数が2千人を超えることもあります。

蔵書8万冊からスタート、開館年度には登録者3万4千人、1年間で55万冊の資料が貸出されましたが、平成22(2010)年度末には、蔵書30万冊、登録者15万4千人、年間貸出冊数86万8千冊と大きく躍進しています。今では、図書館資料の十分な収容スペースがないことが悩みのタネとなっています。

この20年の間、図書館を取り巻きさまざまな出来事がありました。平成7(1995)年の阪神・淡路大震災は、県内のすべての図書館が苦しい体験されたことと思います。当館においても、多大な被害こそなかったもののいくつもの本棚が倒れ、図書が散乱しました。図書館そのものは10日程度で復旧しましたが、当時の図書館職員は市内の各避難所へと応援に回るなど、目まぐるしい1年を過ごしました。



苦しい思い出とともにうれしい思い出もたくさんあります。開館当初より重点的に続けてきた児童サービスにおいては、たくさんのお子たちの笑顔に出会えました。現在も、おはなしのくにや夏休みのこども行事、クリスマス会、お正月会など多彩な行事を、ボランティアとの協働で実施し、子どもたちに楽しんでもらっています。開館当時こうしたイベントに参加した子どもたちも、もう若いパパやママになる世代です。親子2代また3代と図書館でお話や絵本の世界に親しんでもらえればと願っています。

児童サービスとらんで、近年、中央図書館で課題としているのが読書のバリアフリー化です。平成22(2010)年からは「あらゆる人に読書の機会を」を重点目標として新たなサービスを展開しています。まず手始めにこれまで分類ごとに配架していた大活字本を大活字本コーナーとして1か所に集めました。また、音訳サービスや録音図書のデジタル化を進めて、デジ図書やマルチメディアデジ図書の収集・貸出、視覚障がい者を対象としたデジ図書再生機の貸出、音訳ボランティアのためのデジ入門講座の開催などを実施し、障がい者の方々や読むことに困難を感じる人々へのサービスの充実に努めています。

川西市の図書館サービスは、中央図書館の開館に先立つこと8年、昭和58(1983)年に市内11か所のステーションを巡る1台の移動図書館からスタートしました。この移動図書館には、市民からの公募により「ともしび号」と名前が付けられました。「文化の“ともしび”として市民の輪を広げていくことを願う」ことが選考の理由であったようです。平成21年(2009)年3月にその役目を終えましたが、移動図書館が灯した小さな読書の灯はいまも中央図書館に引き継がれています。そして、これからも市民をはじめとする多くの人々の読書の拠り所として、あらゆる人々の“読みたい、知りたい”の要望にお応えしていきたいと考えています。

目・耳・心・手

## 全員で運営していく図書館

衣笠 砂智子 (丹波市立柏原図書館)

丹波市立図書館では、中央館以外の5分館はどこも2名の職員ですべての業務を行っています。カウンターはもちろん、レファレンス、図書の選書・発注、学校等へ出向いてのおはなし会やブックトークなども行います。また、読書週間中に行うイベントなどもそれぞれの館で実施しています。

このように書くと思えるように取れない日々を過ごしているようですが、「全員で6館を運営していく」という考えで6館の協力体制が整っています。自館だけでは解決できないレファレンスには全館の職員で取り組みますし、各館で起きる様々な問題にも知恵を出し合って改善するようにしています。

昨年10月から貸出可能冊数・予約可能冊数が増加したためより忙しくなりましたが、地域に密着した小規模館ならではの細やかなサービスを心がけ、6館の職員全員で親しみやすい図書館を目指していきたいと考えています。

## BM 今昔物語

八尾 浩之 (神戸市立中央図書館)

神戸市立図書館の開館から100年、BMの巡回開始から40年、図書館車“みどり号”も4代目、そして私がBMに配属されて5年となります。

先日事務室の整理をしていたところ、当時の日誌が出てきました。日付はざっと30年前のものです。内容は今と変わらず、雨にも負けず、風邪にも負けず、雪にも夏の暑さにも負けず頑張る図書館員と、多くの本を借りようとする利用者の熱意が行間から感じられました。

とは言っても10年どころか30年ひと昔、当時は、今日は千冊の貸出があったとか、長蛇の列で時間をオーバーしたとか、子どもが利用者の半分をしめているとか書いてあり、現在の同じステーションと比べると隔世の感があります。以前「BMに20年通っています」という利用者がいましたが、30年ともなれば小学生も立派なパパやママになっていることでしょう。もしかすると今の利用者のお母さん方の中には親子2代でBMを利用してくれている場合もあるかもしれません。2代が3代に、そしてさらにその先へとバトンを渡して行けたら幸いなことと思います。

## 学校支援に携わって

家ノ上 さくら (西宮市立北部図書館)

去年から西宮市では学校支援に力をいれており、私が勤める北部図書館でも最寄の東山台小学校にブックトークなどをしに出かけています。私も去年6年生を対象に「江戸時代の文化と庶民の暮らし」をテーマにブックトークをさせてもらいました。

ブックトークを組み立てる作業は、私にとってまさに産みの苦しみです。幾度となく筋書きを変え、使用する本をとっかえひっかえし、言うべきせりふを削っては書き足し、それでも予定時間に見合わず、また最初から考え直す…。でも苦しんだからこそその充実感もあり、終わった後の子どもたちの反応や、紹介した本が図書館で借り出されたときの喜びは、苦しい思いを忘れさせてくれました。

まだまだ経験も浅く、本に対する理解も知識も乏しく、反省も多々ありますが、今日より明日、明日よりその次、をキャッチコピーに、新たな子どもたちと本との出会いをプロデュースしていきたいと思っています。

## うちげ(地元)の図書館

### 一高齢者(読書困難者)サービスの現状一

清水 紀方 (豊岡市立図書館竹野分館)

竹野分館は新豊岡市誕生後、平成18(2006)年に開館して6年になります。開館時から出身地で勤務させていただけることを大変有難く思うとともに、長年待ち望まれたうちげ(地元)の図書館への住民の厚い期待と要望にどう応えていくべきか、その役割と責任の重さに身が引き締まる思いがします。

ことに昨今、地方において増加が著しい高齢者(読書困難者)へのサービスは深刻な問題です。障害認定者とまでいかななくても身体が思うに任せず、日常生活に不便をきたす高齢者や独居老人が既に人口の3割近くをしめる状況です。とはいえ、積極的にアピールし活動する体制がまだ十分ではなく、ゆき届いたサービスが出来ていないのが現状です。本を借りたい。読みたい。でも出かけられない。返せない。このような読書弱者の声にどう応えていけばいいのか、厳しい現実に苦慮する日々です。今後益々進む高齢化に伴い図書館界が向き合わなければならない課題であることは必至。各図書館での取り組みや現状等、情報交換出来る場があればと思います。

## ☆新規加入館紹介☆

### 労をねぎらう図書館をめざして

ひょうご労働図書館

旧兵庫県立労働経済研究所の廃止に際し、その資産を広く県民に活用してもらいたいとの思いから、兵庫県中央労働センター内に労働分野の専門図書館として平成12(2000)年7月28日にオープンしました。

小規模で歴史も浅い図書館ですが、旧兵庫県立労働経済研究所から引き継いだ兵庫労働運動の先覚者・今津菊松氏、労働農民党と関わりの深い社会運動家・古家実三氏の歴史ある貴重な資料のほか、労働運動に関する史誌等も多数所蔵しています。今日の労働環境のめまぐるしい変化やそれに伴う様々な問題・課題に柔軟な対応ができる、時代のニーズに応じた専門図書館をめざしています。

日本を心から愛した明治の文豪・小泉八雲が明治27(1894)年から約2年間当センターの敷地内に居宅を構えていたことから、小泉八雲コーナーを設け関連書籍の貸出を行っています。平成22(2010)年には八雲生誕160年・来日120年にあたり、NHK松江放送局から取材の依頼を受け、八雲の足跡を訪れるツアー等では八雲旧

居跡モニュメントを見学していただきました。

近隣には、神戸を代表する日本庭園「相楽園」や、日没後のライトアップが幻想的で国の登録有形文化財に登録されている「兵庫県公館」があり、まさに文化財の宝庫の中に位置しています。

「労働図書館」というと堅いイメージですが、「労」の文字には“いたわる”や“ねぎらう”等の意味があります。仕事の疲れを「いたわる」、そっと「ねぎらう」。そのような図書館でありたいと思っております。

(ひょうご労働図書館 三田村悦子)

#### ひょうご労働図書館

所在地：〒650-0011

神戸市中央区下山手通6丁目3-28

連絡先：Tel 078-367-3895 Fax 078-367-3896

開館時間：10:00～18:00(土曜日は17:00まで)

休館日：日曜日、祝日、毎月第2月曜日

URL：<http://www.ddknet.ne.jp/~roudou/>

## ☆兵庫ゆかりのコレクション紹介☆

### 『いなみ野の台地』に魅せられて…なかじまのぶたろう 中嶋信太郎 稲美町立図書館

稲美町は、加古川から明石に広がるなだらかな台地の中心に位置し、古の都と畿外の分岐点にあたることから、多くの万葉歌人が望郷の思いを詠んできました。

稲美町立図書館には開館当初から万葉集の蔵書が多く揃えられており、その研究の中心となったのが、平成19(2007)年1月に103歳で亡くなった中嶋信太郎氏です。同年9月、長年にわたって収集された万葉集の多くの貴重な資料がご遺族から寄贈され、“中嶋文庫”として館内で閲覧することができるようになりました。なお、中嶋氏の著作物については貸出しできません。

中嶋氏は、明治37(1904)年稲美町に生まれ、昭和43～57(1968～82)年には「稲美町史」の編集委員として執筆に尽力されました。また、短歌会「茅花(つばな)」芸術文化団体「印南野半どんの会」を結成・主宰しました。小学校・女学校・高等学校等の教諭を務められた後、万葉研究家・国文学者・歌人として知られています。万葉集に関する著作も多く、稲美町のみならず県民文化の向上に寄与された功績に対して「兵

庫県半どんの会文化功労賞」「兵庫県知事賞(ともしびの賞、文化功労)」などを受賞されています。

また、高度経済成長の中、市街化が進み万葉歌人が詠んだ「いなみ野」の風景が消えていくのではないかと、昭和63(1988)年に「いなみ野万葉の森の会」を発足させ、瀬戸内から關竜灘に至る播磨灘の縮景を再現した回遊式日本庭園「万葉の森」の完成にも尽力されました。中嶋氏の「森を守り、文化の芽を育てる」との思いで、園内には万葉集に登場する約120種類の植物が収集・植栽されました。来館者は年間を通して、古のいなみ野の情景に触れることができます。

このように稲美町に多大な貢献があり、文化の発展に大きく寄与したということで、平成17(2005)年7月18日に名誉町民第1号が贈呈されました。

稲美町立図書館は、国内でも珍しい円形の図書館です。万葉の森に囲まれたゆったりとした空間で、古のいなみ野に咲く花に思いを馳せながら素敵な時間をお過ごしください。

(稲美町立図書館長 山本ひとみ)

## ☆平成23年度兵庫県図書館協会第1回研究集会報告

### 「電子書籍の現状と公共図書館の対応について」

日時：平成23（2011）年12月16日（金）

会場：伊丹市立文化会館（いたみホール）

講師：立命館大学文学部准教授 湯浅 俊彦 氏

2010年は「電子書籍元年」と呼ばれ、アマゾンの「Kindle」やアップルの「iBook」が話題となりました。

今回の研究集会では、電子書籍及びその利用について最前線でご活躍中の湯浅先生をお招きし、講演会を開催しました。参加者は26名でした。

概要は次のとおりです。

今、電子出版ビジネスが本格的に取り組まれつつあります。今後、紙媒体の資料のデジタル化と電子出版物の流通によって図書館資料の定義が大きく変わり、利活用されるべきコンテンツのプロバイダーとしての図書館が求められるでしょう。

そのためには国がデジタル・アーカイブを構築し、出版社によるコンテンツの再生産を支援するような新しい仕組みを確立することが求められます。また、出版社や著作権者との利害調整を行い、利用者により多量の資料を提供できるようにしなければなりません。そして、同時に公共図書館には地域資料のデジタル化が求められます。



最新の情報を具体的にお話しいただき、非常に勉強になりました。市町村立図書館としては、国や県、政令市立図書館のアクセスポイントとしての役割が考えられるとのことでした。（伊丹市立図書館 長谷川加奈）

## ☆臨時休館のお知らせ

丹波市立市島図書館は浸水被害のため1月20日（金）から当分の間臨時休館する。書架を移動しじゅうたん張り替え工事を行う。年度内復旧をめざしている。

伊丹市立図書館は7月1日開館予定の新図書館へ移転のため4月9日から6月末まで休館する。

## ☆兵庫県読書推進運動協議会より

平成14（2002）年5月に兵庫県読書推進運動協議会を結成してから今年で10周年となります。

読書週間とこどもの読書週間行事の調査と報告、読書週間のポスターや若い人に贈る読書のすずめリーフレットなどの配布等の広報活動、子ども文庫助成事業や子どもの本100冊助成制度の紹介等を通じて、県下の読書活動推進の一助を担ってきました。

平成23年度はこれに加えて、「野間読書推進賞」受賞候補者推薦、および「優良読書グループ推薦」について情報提供したところ、推薦いただいた次の団体がそれぞれ受賞されました。毎月お送りしている機関誌『読書推進運動』誌上に、受賞された団体の活動内容が掲載されていますのでご紹介します。

**野間読書推進賞：みきおはなし会・絵本の森**  
（三木市立図書館推薦）

**優良読書グループ：図書館読み聞かせボランティア「おはなしかご」**  
（伊丹市立図書館推薦）

## ☆平成24（2012）年度大会等の予定

- ・第78回国際図書館連盟（IFLA）ヘルシンキ大会  
2012年夏 フィンランド・ヘルシンキ
- ・平成24年度第98回全国図書館大会島根大会  
平成24（2012）年10月25・26日  
島根県民会館ほか（島根県松江市）  
テーマ：文化を伝え未来を創る図書館—古事記  
編纂1300年 神々の国しまねから—
- ・近畿公共図書館協議会研究集会・「芸亭院」開創  
1250年顕彰・図書館振興研究集会 5月10・11日  
奈良市ロイヤルホテル・天理大学附属天理図書館  
テーマ：地域資料とMLA連携—地域資料を集める・提供する・伝える—
- ・全国公共図書館研究集会 サービス部門、総合・  
経営部門 11月7・8日 開催地：滋賀県大津市
- ・同 児童・青少年部門  
11月29・30日 開催地：広島県広島市
- ・文部科学省図書館地区別研修（近畿地区）  
担当：大阪府立中央図書館

兵庫県図書館協会会報 No.98

平成24（2012）年3月1日発行

編集・発行：兵庫県図書館協会

〒673-8533 明石市明石公園1-27

兵庫県立図書館内

Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500

E-mail:hyoto\_hyotokyo@library.pref.hyogo.lg.jp